

千葉市コミュニティ施設における室の兼用の課題

日大生産工（院）○古田 博一 日大生産工 山岸 輝樹
日大生産工 広田 直行

1. 研究の背景と目的

高度経済成長期における公共施設の一斉整備から30年が経ち、現在多くの施設が更新の時期を迎えようとしている。しかし、少子高齢化に伴う人口の減少と財源の圧迫により、全ての施設更新は難しく、施設の面積を減らしながらどのように利用者ニーズへ対応するかが課題となっている。

一方、コミュニティ施設では現在、利用者ニーズの対応と、施設の利用率向上を目的に、一つの室で複数の行為に対応している。しかし、室の設置目的と異なる利用は計画概念の差異から利用上様々な不都合が生じていると考えられる。これらの課題より、コミュニティ施設における室の多機能化は今後のコミュニティ施設を計画する上で有効な手段であると考えられる。

本研究は、利用者の満足度評価よりコミュニティ施設の室の多機能化に向けて有効な知見を示すことを目的とし、本稿では、その事前調査として、利用者アンケートより室を兼用する際に生じている課題を整理する。

2. 研究の方法

千葉市のコミュニティセンター全14館（表1参照）を対象とする。調査する室は、一般住民が利用できる室のうち、予約を必要とする集団学習空間に着目し、その中で複数の活動に利用されている室とする。

はじめに施設の管理者にヒアリング調査を行い、各室の運営方法、面積、設えや利用行為について確認する。上記で得られた情報から、対象とする諸室を決定し、利用者に直接アンケートを依頼する。アンケートの結果より、室の兼用における課題を整理する。本稿では、室分類と利用行為の関係から、室の兼用における課題を整理するところまで報告する。

既往研究『千葉市コミュニティ施設の空間特性と利用行為からみた「機能複合スペース」の

成立要件』^{※1}より、千葉市のコミュニティ施設より抽出した利用行為を分類したものを表2に示す。また、施設管理者へのヒアリングより抽出した対象の諸室を室名称にかかわらず、室の規模と設えの違いにより6つに分類した概要を表3に示す。以降はこの利用行為および、室分類に従って調査および分析を行っていく。

表 1. 施設の概要

事例番号	施設名	竣工年
1	中央コミュニティセンター松波分室	1964年
2	中央コミュニティセンター	1974年
3	畑コミュニティセンター	1979年
4	高須コミュニティセンター	1980年
5	都賀コミュニティセンター	1983年
6	幕張コミュニティセンター	1991年
7	千城台コミュニティセンター	1991年
8	蘇我コミュニティセンター	1991年
9	穴川コミュニティセンター	1993年
10	土気あすみが丘プラザ	1993年
11	鎌取コミュニティセンター	2000年
12	花島コミュニティセンター	2005年
13	長沼コミュニティセンター	2005年
14	真砂コミュニティセンター	2016年

表 2. 利用行為の分類

分類	要素	利用行為
I スポーツ	I-a 軽スポーツ	卓球、吹き矢、空手、輪投げ、スポーツチャンバラ、合気道、古武道
	I-b エクササイズ	健康体操、ヨガ、気功、太極拳、体力づくり
II 育児支援		人形劇、紙芝居、児童工作、親子リトミック
III 学習		文芸（川柳・短歌・俳句）、文学、語学、領土史、IT講習、研究、生活技能、同好会
IV 集会	IV-a 発表	発表会、講演会、鑑賞会、劇、ミュージカル、映像編集
	IV-b 会議	会議、地域集会（子供会、老連会、町内自治会、社会福祉協議会）研修、ボランティア
V 音楽	V-a 楽器演奏	オーケストラ、器楽（ギター、ハーモニカ、リコーダー、マンドリン、オカリナ、大正琴、三味線、太鼓）
	V-b 歌唱	民謡、コーラス、詩吟、カラオケ
VI 舞踊		社交ダンス、フラメンコ、バレエ、フラダンス、ジャズダンス、民族舞踊、スクエアダンス、日舞、盆踊り、創作ダンス、剣舞
VII 美術・工芸	VIII-a 水	水彩画、書道、水墨画、フラワーアレンジメント、生花、藍染め
	VIII-b 陶芸・七宝	陶芸、七宝焼
	VIII-c 和	茶道、華道、着付
	VIII-d その他	和裁、手工芸、絵画、木彫、写真、園芸、洋裁
VIII 趣味・娯楽		囲碁、将棋、手品
IX 料理		

Problem of the chamber of the alternate in Chiba City community facility

Hirokazu FURUTA, Teruki YAMAGISHI and Naoyuki HIROTA

表 3. 諸室の分類

室名称	抽出室名称	設え	平均面積 (㎡)
講習室・会議室	講習室、会議室、サークル室、 研修室	机、椅子、黒板	50.6
工作室	創作室・多目的室	工作台、水場、収納	74.4
音楽室	音楽室	防音設備、ピアノ、音響設備	93.9
和室	和室・茶室	畳敷き、水屋、踏込	49.3
大広間	大広間	畳敷き、舞台、音響設備	101.4
多目的ホール	多目的室・集会室・ホール・ 美術視聴覚室・ヘルシーホール	椅子、舞台、音響設備、大鏡、 収納	224.9

3. 室の兼用における室名別利用者評価

アンケートは平成28年6月から10月の4ヶ月間利用者に直接アンケートを依頼する。アンケートは以下の手順①-③で行う。①利用者に利用諸室と活動内容について記入を求める②多項目選択方式で、利用者に活動を行うにあたって不満だと思うことについて印をつけることを依頼する。③項目に該当しない不満について自由記述欄を設け、自由に記述した後、活動を行う上で、適当な支障の程度に印をつけることを依頼する。本稿では、①と②で得られたデータについて分析を行う。アンケートの設問項目を表4に示す。また、室分類別の抽出数や回答数をまとめたものを表5に示す。

表 4. アンケートの選択項目

設問項目	
部屋の広さの問題	防音の問題
明るさの問題	床仕上げの問題
火気使用の問題	備品収納の問題
水道使用の問題	

表 5. 室分類別抽出・調査室数及び回答数

室分類	抽出施設数	抽出室数	調査室数	回答数
講習室・会議室	14	75	74	548
工作室	13	16	16	83
音楽室	11	13	13	188
和室	14	24	24	205
大広間	7	8	8	92
多目的ホール	12	16	16	214
合計	-	152	151	1330

3-1. 講習室・会議室における利用者評価

講習室・会議室におけるアンケートの結果を図1に示す。講習室・会議室は、移動可能な机と椅子によって構成されていることから、使用目的に合わせて部屋のレイアウトを自由に変更できるため他の5室に比べて行われている利用行為が多い。そのため[料理][軽スポーツ]を除くすべての利用行為でアンケートの結果が得られている。アンケートの結果では、防音に対する不満が最も高く、すべての利用行為において不満が見られている。特に、[学習]においては半数近くの利用者が不満だと答えている。[学習]や[会議][エクササイズ]といった静寂や集中を要する行為においては外部の活動から発される騒音が行為を阻害してしまうことが不満の要因と考えられる。一方で、[歌唱]や[演奏]といった音楽行為においては、発した音が響きすぎてしまい演奏がしにくいことや、外部に漏れることで周囲に迷惑をかけてしまう懸念が不満の要因であることが利用者からのヒアリングよりわかっている。すなわち、音を発することで不満を感じる行為と、音を受けることで不満を感じる行為の二つにおいて防音の不満がみられているといえる。こうした防音の不満は換気のため設けられたガラリや、室内を見学できるように設けられた窓が大きな要因だと考えられるが、公共施設のレベルとして、どこまで整備すべきなのか、今後検討して行かなければならない。続いて、備品収納の不満が高い結果となっている。備品収納に対する不満は、[会議]と[美術・工芸-その他]を除く行為において不満がみられており、特に道具の持ち込みを必要とする育児支援や、演奏、趣味・娯楽において不満が高い。床仕上げでは、体を動かす[舞踏]や[エクササイズ][育児支援]で不満が見られており、踊りや寝転がる際の身体への負荷や、子供が動き回るために安全や衛生を懸念した不満と考えられる。例外として音が響き

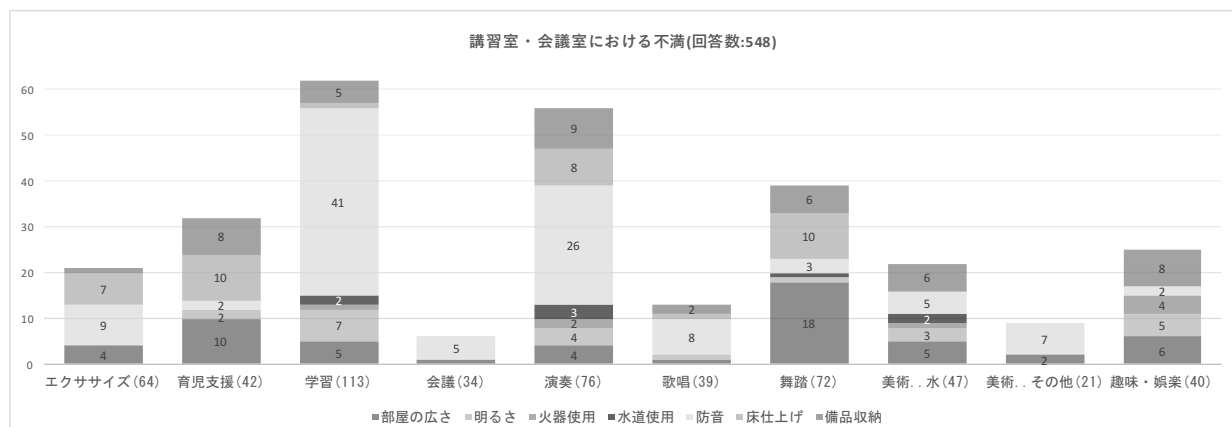


図 1. 講習室・会議室における不満

すぎてしまうために[演奏]においても不満がみられている。これらは、講習室・会議室の多くが塗り床などの硬質な床材を使用していることが原因と考えられる。最後に空間の広さに対する不満が、身体を動かす[舞踏]や[育児支援]でみられる。講習室・会議室は他室に比べ面積が低いいため、面積の課題と考えられるが、今後の他室の分析を通して考察して行く。以上、多様な利用が行われている故、不満も多岐にみられる。より具体的な要因を明らかにするためには今後、施設毎に細かくみていく必要がある。

3-2. 工作室における利用者評価

工作室におけるアンケートの結果を図2に示す。工作室は、工作活動を行うための作業台や水道を備えた室であることから、多くが工作系の活動によって占められている。そのため、アンケートの回答も多くが[美術・工芸]の活動である。アンケートの結果より、水道使用に関する不満が最も高いが、その理由は水道の数がないことや、水道の故障が原因だと利用者のヒアリングより明らかになっている。防音に対する不満は、講習室と同様に集中を要する工作行為において不満がみられている。

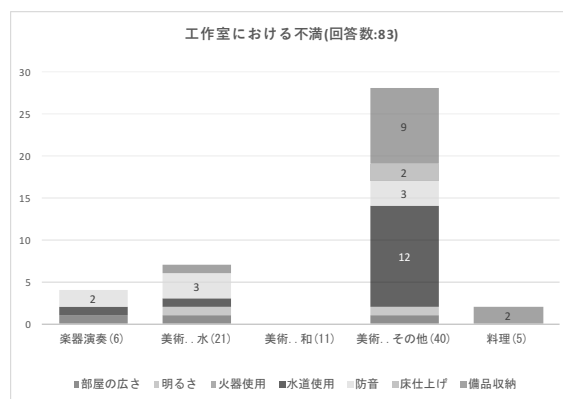


図 2. 工作室における不満

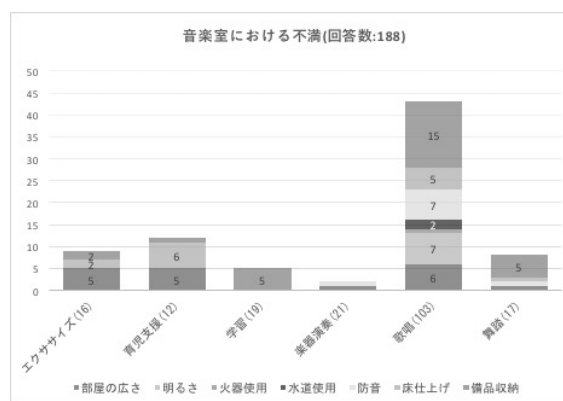


図 3. 音楽室における不満

3-3. 音楽室における利用者評価

音楽室におけるアンケートの結果を図3に示す。音楽室は音楽活動に対応するために防音設備や、ピアノ等の楽器を備えた室である。そのため、[音楽]の活動や、音を使うことに付随して[舞踏]や[エクササイズ][育児支援]などに利用されている。アンケートの結果より、音楽室は他室に比べ防音に対する不満が低い結果となっており、講習室・会議室でみられるような不満はみられない。一方で、備品収納においては講習室・会議室同様、全行為で不満が見られている。

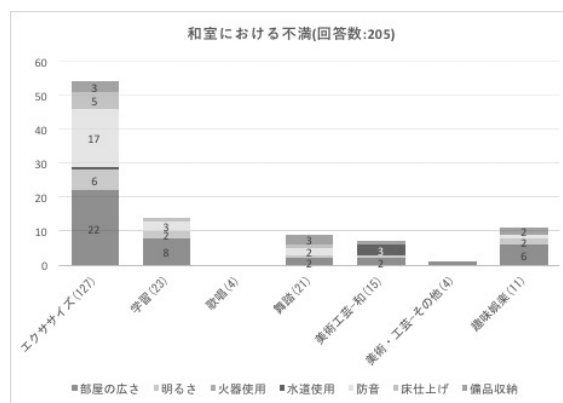


図 4. 和室における不満

3-4. 和室における利用者評価

和室におけるアンケートの結果を図4に示す。和室は、畳敷きで室によって踏込や水屋、床の間を設えている和の雰囲気を持つ室である。机・椅子を設けていないことや、裸足で利用できることから講習室・会議室に次いで様々な活動に利用されている。アンケートの結果より、[エクササイズ]や[舞踏]といった体を動かす活動において他室より床仕上げの不満が少ない。畳敷きであるため、体への負担が少ないことや、畳を前提とした日本舞踊を行う利用者が多いことが理由として考えられる。

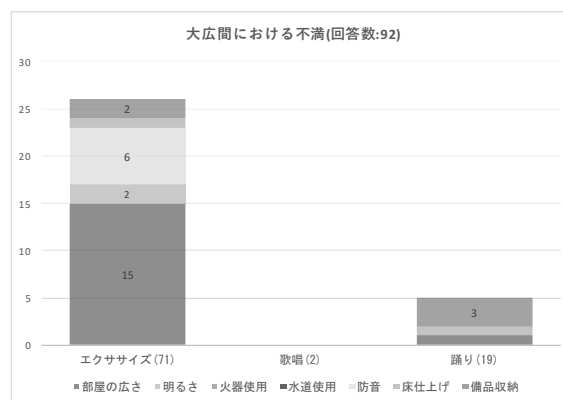


図 5. 大広間における不満

3-5. 大広間における利用者評価

大広間におけるアンケートの結果を図5に示す。大広間は和室と同様に畳敷きの室だが、100㎡を超える規模のため、[エクササイズ]や[踊り]といった体を動かす活動が大半を占めている。しかし、アンケートの結果では、[エクササイズ]の部屋の広さに対する不満が高いため、部屋の広さに対する評価は、利用人数に左右されるものであり、人数の調整によって対応する必要があるといえる。

3-6. 多目的室

多目的室におけるアンケートの結果を図6に示す。多目的室は室面積が最も大きく、室によって舞台や音響設備、鏡を備えた室である。そのため、[軽スポーツ]や[エクササイズ][舞踏]といった体を動かす行為に多く利用されている。アンケートの結果より、[軽スポーツ][エクササイズ][舞踏]において空間の広さに対する不満が見られる。大広間と同様に、利用人数の調整による対応の必要性があるといえる。

4. まとめ

本稿で明らかになった室の兼用の課題についてまとめる。

1. 空間の広さには、利用対象人数によって決定する必要がある。
2. 水道は利用行為の違いにおいて起きる不満要因としてあげられていない。近くの水道設備により対応可能といえる。
3. 防音は多くの利用行為に共通しておきる不満要因としてあげられる。一方で、公共施設としてどこまで整備すべきか検討する必要がある。
4. 床仕上げは、利用行為の違いにおいて起きる不満要因としてあげられる。
5. 備品収納は多くの活動に共通して不満がみられており、室の兼用において重要な要素といえる。
6. 明るさ及び火器使用の問題については、不満はあるものの利用行為との関係性が見られていない。

[今後の課題]

1. 兼用の課題において、より具体的な要因を明らかにするためには、今後、施設毎に細かく分析していく必要がある。

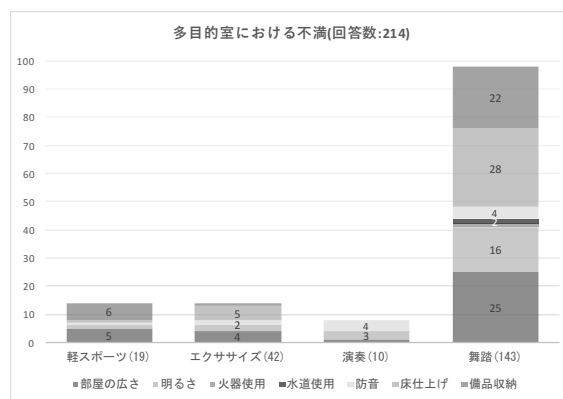


図 6. 多目的室における不満

2. 自由記述の分析を行い、室の兼用における課題を整理する。
3. 室の多機能化に向けて要件を整理する評価項目、評価方法を検討する。
4. 防音の課題で示したように、公共施設としてどのレベルまで整備すべきなのか検討をする。

[注釈]

※1高橋潤『千葉市コミュニティ施設の空間特性と利用行為からみた「機能複合スペース」の要件』平成25年度日本大学生産工学部修士論文P20

[参考文献]

1. 日本公民館学会編：公民館コミュニティ施設ハンドブック、エイデル研究所(2003)
2. 浅野平八『地域集会施設の機能構造に関する研究』(1988)
3. 高橋潤『千葉市コミュニティ施設の空間特性と利用行為からみた「機能複合スペース」の要件』平成25年度日本大学生産工学部修士論文
4. 片桐隆博『千葉市コミュニティ施設における学習行為と空間の対応』平成25年度日本大学生産工学部修士論文
5. 住まいと街とつくるための調査のデザイン-インタビュー/アンケート/心理実験の手引き 社団法人 日本建築学会編(2011)